

## ～ セピア色の風景 ～

## 「おかいこさん②」

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

蚕（かいこ）の餌は桑の木  
の葉であったため、祖母は一枚  
一枚摘んだり、枝を切つてき  
て器具でこき落としていまし  
た。その葉を成長に合わせ蚕  
にかけてました。葉を摘むには、  
桑摘み爪（裁縫の指ぬきに刃  
が付いたようなもの）を人差  
し指の指先に付けていまし  
た。特に祖母の両手使いの桑  
摘み姿は、見事なものでした。

子どもの仕事は、葉が一杯  
になつた摘み人の腰籠を受け  
取り、葉を大きな籠に入れ替  
えることでしたが、大きくな  
るにつれ桑摘み爪を付けさせ  
てもらいました。

その後、飼育方法も改善さ  
れ枝を切つてきて、葉が付い  
た枝のまま蚕にかけました。  
考えてみれば、葉を食べる虫  
たちは、本来幹から枝と伝え  
渡るわけですから、子ども心  
に得心したものです。汗と桑

の葉の入り混じつた匂いと、  
ばい菌阻止のため養蚕室を消  
毒したホルマリンの匂いが、  
今も鼻にツンとききます。

おかいこさんと祖母とは、  
切り離せない記憶があります。  
数年、わが家の養蚕には悲劇  
が続きました。

蚕が順調に成長するので  
す。間に間もなく繭（まゆ）を作  
る段になると病死するので  
す。後に原因が分かるので  
す。近所の家のお蚕を見た帰り  
に祖母が、わが家の脇に立つ  
椿の所に来ると思わず、悔し  
くて悔しくて涙を流したとの  
話を何度か聞いたものです。

おかいこさんというわが子を  
亡くしたような話でした。  
祖母が住む隠居と、養蚕  
室は棟続きになつており祖母  
は少しでも気になることがあ  
ると、昼夜問わず足しげくお  
かいこさんの見守りに行つて

ました。

養蚕室で炭の温度調整をし  
た祖母が、しばしば炉のそば  
で仮眠していました。学校か  
ら帰り、私は「ばばちゃん」  
と呼び返事の所に行くと、炉  
の上の焼き網には、残りご飯  
を握つた味噌おにぎりがこん  
がりと載っていました。

祖母は「うめがー（うまい  
か）、「学校はどうだった」な  
どと聞いてきたものでした。  
成長した蚕は、いづれ桑の葉  
を食べなくなり繭（まゆ）を  
作る段階になります。その頃  
合いを確かめるため、祖母は  
よく蚕を電灯に照らしていま  
した。適度な時期になると蚕  
は透き通るようになるのです。

●あおた・しげお 1956年  
生まれ。福島県相馬市出身。20  
16年5月から仙台建設業協会の  
専務理事を務める